

郷土資料

あれこれ 66

【問合せ】
社会教育課 郷土史編さん係
☎773-2197

神社の境内や道路の傍らで「二十三夜塔」と刻まれた石塔をみなさんもよく目にする
ことがあると思います。今回は、この「二十三夜塔」を紹介
します。

特定の月齢(月の満ち欠け)に合わせて、「講」を組んだ人たちが夜に集まって、手仕事、歓談や飲食を楽しみながら月を拝むという民間信仰の行事を「月待ち」といいます。旧暦の15日、16日、17日、19日、20日、22日、23日、26日などの月齢に合わせて、その日の夜に「二十三夜」や「二十三夜講」と呼ばれ行われていました。

それぞれの月夜には、例えば十五夜は大日如来、二十二夜は観音菩薩、二十三夜は勢至菩薩と本尊が祀られているそうです。月の化身が勢至菩薩と信じられていたため二十

三夜を祀る「二十三夜講」が一番広く全国に広まったそうです。
「二十三夜講」では、

どんなことが行われていたのでしょうか。二十三日の夜は月が出るのが午前0時ごろと遅く、講の行われる家に灯明やごちそう、手仕事の道具(苧績)を持参して集まり、手仕事や雑談、お茶を飲んだりしながら月が出るのを待ち、月が東の空に昇ると灯明を供え祈り、解散となるのだそうです。

盛んに行われるようになったのは江戸時代の後期で、最初は女性だけが、やがて男性も行うようになり、やがて共同で行い、明治時代にはほとんどみられなくなったといえます。
この月待ち信仰のあかしとして建立された石塔が「二十三夜塔」となります。

下原には、文政2年(1819年)8月に世話人安右衛門らによって建立された「二十三夜塔」があります(写真1)。石工の太郎兵衛によって2メートルを超える自然石に「二十三夜塔」と朱

【資料】

- 『新編城内郷土誌』
- 『村の歴史―君沢周辺―』
- 『六日町史』通史編第二巻

『六日町史』通史編 第二巻を発刊

【問合せ】
社会教育課 郷土史編さん係
☎773-2197

『六日町史』通史編第三巻 近・現代を発刊しました。

明治時代から平成の大合併で閉町となるまでの六日町地域の歴史を紹介しています。
この巻は、みなさんから提供していただいた資料や地域に残る資料を活用し、構成・執筆されています。

体裁 A5版約550頁
販売価格 3000円
販売窓口 郷土史編さん係
中央、大和、塩沢公民館

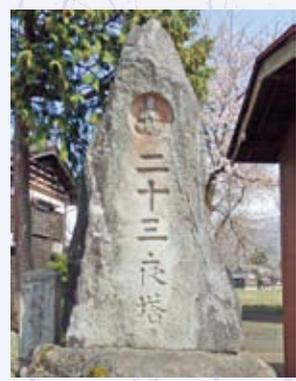
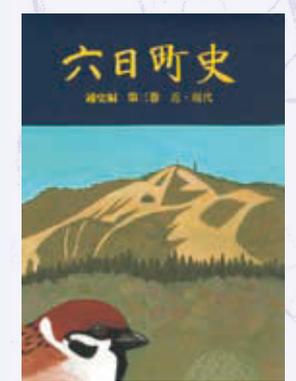


写真1 下原「二十三夜塔」
(市指定文化財)



八色の森から ①

【問合せ】

八色の森公園管理事務所
☎780-4560

公園や周辺で見られる生物など、季節に応じて紹介します。

ユキツバキ

新潟県の木。庭木によくあるヤブツバキと違い、花びらが平になるくらいに開き、雄しべが黄色くバラバラです。名前にして、寒さに弱く、凍害を受けやすいため冬の間、雪に覆われる地域にのみ分布しています。枝がよくしなり雪折れしにくいのも特徴です。

八色の森公園内にも多数、植栽されています。

